

# 警城時報

日刊 九十月 第十卷

編輯者 石城郡平町 田 弘成  
 印刷者 石城郡平町 印刷所  
 發行所 石城郡平町 印刷所  
 電話掛金 一月金五拾圓  
 一月金二圓五角  
 日刊(日曜祭日) 休刊

## 政友幹事長問題

### 結局保留となる

#### 祝賀會も延期

石城郡政友部の幹事會は十八日開かれたが、平町二丁目事務會開催は早計であらうといふ所、佐々木、高橋、馬目、兩町も同様追つて人選する事となり、外敷氏出席し鈴木辰三郎氏散會した。

## 平町會

二十一日開催の工事はより土堤防とすることを、本年度一時借入金の問題も原案可決更に明年以降の繼續事業等について關係町村の連絡上熟議を要するものがあるといふ事になり、飯野村より山崎吉平氏、平町より吉田寅之輔氏、内郷村より菅波忠治氏の三名を挙げて散會した。

## 俄然炭價上る

### 十二月から噸當り一圓

#### 活氣づく常磐各礦

石城郡警城、入山、古河等の各の採用をいつ、ある炭礦も生じ炭礦では過般不況打開の爲め全て来たが、之が爲めに十二月十日國石炭聯合會の決議に基づき二割五日から常磐炭一噸につき一圓二分の送炭制限を行つたが、今やの騰貴となつて居りこの影響を需要期となり工業方面以外に各受けて常磐線、湯本、勿來、家庭の需要がメッキリ増加し今、南中郷、高秋、警越線赤、夏十四萬噸と云はれてる常磐井、小川郷の各礦から搬出されの要求に應じ一圓二十錢を主人地方各炭礦のストツク炭も逐次的に石炭は従來平均貨車五五に貸した處十二日朝沈に對し泊滅せられしストツク炭の山百輛に過ぎず之も内四割は鐵道めぐり外に出し宿泊人運田易を樂いてゐた石炭は現在では送炭納付であつたが現在は運轉貨六ゆけと戸外に出し宿泊人運田易に一番せられてしまひ現在の探百五十輛を算する状態であり霜之助(四九)と共に火箸で撃打し炭率不足となり新らしく人夫要期に入り漸次炭價の上騰を招いたので平署に告訴された。

## 水害豫防組合會

### 石城郡平町外二箇村水害豫防組

合會は既報の通り十七日平町役場會議室に於て開かれたが、本年度の施行工事新川改修百八間工費一萬九千九百圓の補助申請に對し縣は査定の結果工費施行七十二間工費五千七百七十二圓に減額補助金二千四百六十七圓の指令に基き從來のコンクリートの堤防は打ち切りとして本年度の工事はより土堤防とすることを、本年度一時借入金の問題も原案可決更に明年以降の繼續事業等について關係町村の連絡上熟議を要するものがあるといふ事になり、飯野村より山崎吉平氏、平町より吉田寅之輔氏、内郷村より菅波忠治氏の三名を挙げて散會した。

## 鮮人を毆る

石城郡内郷村大字綴字河原木實宿相馬屋方止宿朝鮮人松本新太郎事沈民澤(三八)は去る四日から宿料二十錢食料十錢の約束で宿泊するに際して一圓二十錢を主人に貸した處十二日朝沈に對し泊滅せられしストツク炭の山百輛に過ぎず之も内四割は鐵道めぐり外に出し宿泊人運田易を樂いてゐた石炭は現在では送炭納付であつたが現在は運轉貨六ゆけと戸外に出し宿泊人運田易に一番せられてしまひ現在の探百五十輛を算する状態であり霜之助(四九)と共に火箸で撃打し炭率不足となり新らしく人夫要期に入り漸次炭價の上騰を招いたので平署に告訴された。

## 吉田正雄氏を種にした

### 詐欺漢柳田捕はる

#### 現在まで若干代と同棲

昨十月頃から平町字殿治町高那浦賀町鴨井五十四青木由五郎根澤長太郎方に滞在し神奈川縣(三二六)の行衛については警察長三郎(三三)と稱し江名町吉田八日午後一時頃千葉縣安房郡北津雄氏を欺き五千圓の約束手形條町島原鐵工所に働いてゐた處を書かせ之を持って元平警察署を所轄北條警察署の手に捕はられ長伊藤儀七その他から數千圓をた、柳田は同町に於て現在まで捲き上げ平町田町藝妓屋若干代藝妓若千代と同棲してゐたが身事山川まつ(二二)を連れて逃走捕取りのため半澤刑事千葉縣した稀代の詐欺漢柳田三浦に出張した。

## 懲役六年を求刑された

### 尊族殺し無罪

双葉郡新山町字前田精米穀半谷裁判長は無罪の判決を言渡した。寛(四二)が實父權兵衛を殺害し保り辯護士は平町千葉、真木兩の門下族殺し事件は過般平支部で氏である。

## この悲惨事を見よ

### 平町の歳末世相

昭和五年の calendari も残り少いといふ年の瀬のあわただしさを感じさせるものがある。平町の銀座街を一日目から三日目の大通に年末大賣出しの賑や賑やかさ、その押し寄せて表面だけはさすが景氣のいよ所を眺めてゐるが、その實の店も山と積んだメツク思案投げ首の体たたくもの、町の一流どころでさへ苦しまぎれの「大端の大亂賣」や「緊縮時代の新安値」式宣傳に日も二流商店の如き推して知るべし、どこまでかう不景氣が續

ふ事實の證據が不充足ならば、が手當の結果生命は取止めるりてなく東北帝大石川博士の死因は急性肋膜炎であるといふ死因は急性肋膜炎であるといふ死因は急性肋膜炎であるといふ定された結果である。

## 詐欺類似の宣傳をする

### 興行を取締る

其筋では映畫館その他興業場にて行つてゐるが、これ等の輩に對しおける事故防止一策として興行では法律的制裁はないけれども、ならびに興行場取締規則の一部民衆を愚弄するも甚だしいのでを改正し十二月二十六日から實今後これ等の興行を厳しくした。最近不景氣の影響からよくその身を調査し所轄警署とも民衆が割合にその方面警察署では宣傳等に詐欺的文名の事情に暗いのを利用してか相を使用せぬやう警告を發する。當名のある俳優や藝人の名にまことなつた、最近不景氣の影響からにはしき藝名を使用し恰もそととして有名な某と同一の名前の本人であるかの如く思はせる俳優が縣下を興行してたとの噂インキ興行をやるものが打廻り、これ等の取締方考究中

草は大低木綿の襦袢や羽織で毎日廿八はやつて来ます。一口の金額は三四十錢から五圓位が提議で、これが所謂消費資金として臺所方面に使はれるわけです。商賣柄客筋は、あまり見えなない様です。皆氣の毒な人ばかりで時々身につまみされて貴ひ泣きする。これもありませぬ。途昨日も古ぼけた子供の着物を持つてきて十錢貸してくれとやつてきた。お内儀らしいのが色々家庭の事情もきいては二十錢で返してしまふ。大層だ。その足で米を買つて行くといつてましたよ。どこでもしみ、どこでもしみ、どこでもしみ。平町新川町無職秋山八藏(六

炭も。揮發油も。電氣も使はず

ホカく温い(入替料(金一圓廿分)  
最新化學の生んだ理想的保温器  
火なしあかん

特許賣 文化暖爐

定價(一組)(材料付三圓)  
▼一般家庭の保温用(殊に小兒、老人、病人用) ▼病院にはベットの保温用 ▼自動車にはクッションの保温用 ▼旅館等には蒲團の保温用 ▼事務所には椅子の保温用 ▼麻雀俱樂部等には座布團の保温用 ▼安全と經濟を兼ねた時代の必需品

販賣店 小野常治商店  
平町四丁目  
電話百四十四番

ろくまく炎特效薬

皇漢助膜湯 一週間分 貳圓  
家傳の方劑にして「ろくまく炎」に奇効あり、下熱、鎮痛、消炎、利尿、強壯等の作用顯著にして醫藥併用等に副作用なく、自宅治療劑として最も適當なり。

特約店 平町四丁目 小野藥店 植田町 松本藥店  
同三丁目 宇佐美藥店 湯本町 岩瀬藥店  
製劑所 茨城縣下孫 健生堂醫院製劑部

耳鼻咽喉科専門

應入院 合津醫院  
平町仲田町七一  
電話五五九番

内科 小兒科  
花柳病科

藤沼醫院 (入院應需)  
平町紺屋町  
電話平園五〇七番

外科 專門

花柳病科 專門

平町六丁目橋際  
木村外科醫院  
電話三〇九番

專門 内科一般

内科ハ何デモ診療致マス  
呼吸器病バカリデアアリマセン  
平町南町六五改(電話一八一番)

川井内科診療所  
醫學士 川井重子  
女醫 川井安子

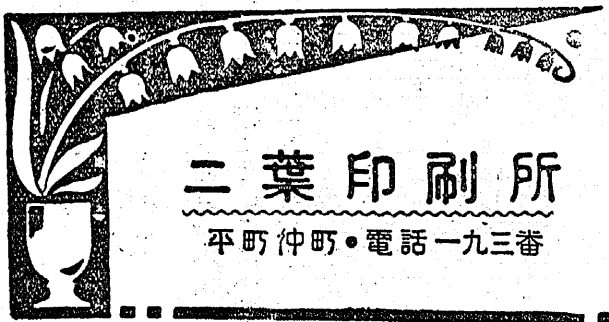
度量衡計量器

吸入用酸素器

關内藥局  
電話四〇番

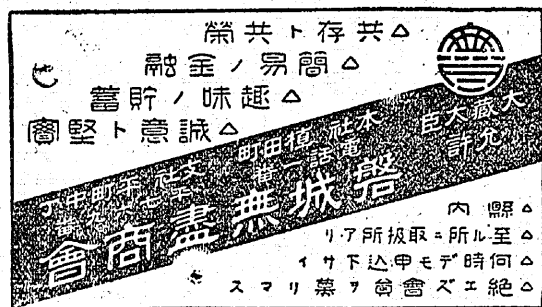
滋養、強壯劑として愈々好評  
偉大なる藥酒「栗守酒」  
朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は休眠の助力

栗守酒特約店 大平屋藥店  
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目一電四六二



二葉印刷所  
平町仲町・電話一九三番

鼻の薬「チクノール」  
平五 山野邊藥局



和洋銅鐵金物問屋  
諸橋久太郎  
電話九九番

米も安い  
つぶし 丸麥 福麥  
平町土橋 マルマン商店 電話四八九番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店  
諸橋久太郎  
電話九九番

カキ貝御料理

カキフライ  
カキナベ  
スナカキ

御料理 一の井  
右之通り御案内申上ます  
電話一六七番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科門

病室完備：自炊の便あり  
平町南町 大和田醫院  
電話一七〇番